

静岡市立清水小河内小学校

出前授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和4年7月7日(木)



「体験することの素晴らしさを感じました！」

静岡市立清水小河内小学校の6年生5人が、社会科の授業で、縄文・弥生時代の暮らしに関心を持ち、理解を深めることを目的に、松浦先生が計画して、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの3つの体験をしました。

土器の分類体験

縄文時代～古墳時代にかけて、土器の特徴が変わっていったことを簡単に説明し、土器片を3つに分けてみました。はじめは調子よく分けていましたが、分類に困る土器片が出てきたときは手が止まり、深く考えていました。とりあえず3つに分けた後、土器の焼き方や作り方を聞き、それぞれの特徴がわかるようになりました。弥生土器と須恵器の違いも理解し、ろくろを使用した痕跡などを手がかりに分けることができました。

「土器の種類や特徴がわかって良かった。」「見分け方がわかって良かった。」



石器の試し切り体験

土器分類の後、引き続き石器の試し切り体験を行いました。運動場に穴を掘るとき何を使うか考え、鉄がない時代は石を使うことの意義を確認しました。打製石器や磨製石器を見ることで、木を削ったり、穴を掘ったり、武器にしたりして、石が様々な用いられたことを理解し、石の重要性を確認しました。次に、黒曜石で新聞紙や野菜くずを試し切りしました。黒曜石の切れ味に驚いていました。

「黒曜石はすごい。」「黒曜石はものすごく切れた。」「黒曜石で切ったとき、楽しいけど大変だった。今の時代で良かった。」



火起こし体験

はじめに、もみきり法や弓きり法など、いろいろな火起こしの方法を説明しました。その後、舞きり法での火起こしの手順を確認し、デモンストレーションで火を起きました。風がよく通る体育館通路でしたが、弾み車をしっかり回して火種を作ると、火種を火口に丁寧に持って行き、フーフータイムも風向きを考え、5人全員が火を起こすことができました。弓きり法で頑張る子も見られました。

「1から火を起こしたりして大変だと感じた。」「昔の人はすごいと思った。」「火の付け方に名前があることを知れた。」「舞きり法は後の時代ということがわかった。」



松浦先生の感想

「全員が本物の土器に触れることができ、実感を伴った学習となりました。登呂遺跡、賤機山古墳の見学の後だったので、学びを深めるために授業をしていただきました。見学の学びとつながりがある時期でとても良かったです。たくさんの質問に答えてくださり、初めて学んだりすることも多く、大変分かりやすかったです。歴史は、『遠い昔の話』となってしまうがちなところを昔の人の暮らし(火起こし)を体験することで、先人の知恵やより便利にしようと工夫してきたことや時代の進歩を実感できる機会になったと思います。」

